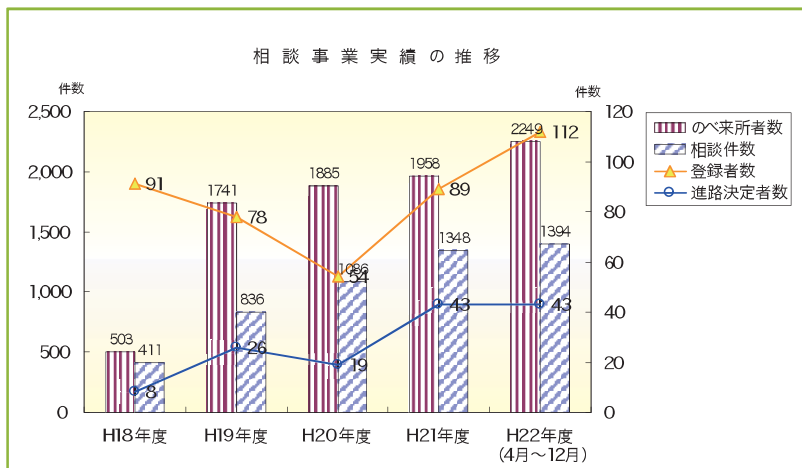


徳島県若者サポートステーション

[これまでの実績]

平成18年9月に、一定期間無業状態にある若年者(概ね義務教育修了後15歳～40歳未満)の職業的自立を支援する取り組みとして、厚生労働省の委託事業である地域若者サポートステーション事業「徳島県若者サポートステーション」(サポステとくしま)が徳島駅前に開所してから4年半が経過しました。地域若者サポートステーションは、近年、無業状態や引きこもり状態にある若者が、深刻な社会問題になっていることから、平成18年、モデル事業として全国25箇所を設置されましたが、年々事業は拡大していき、平成22年度は全国100箇所で開催、一定の成果を挙げています。

こうした若者たちに対し、自立を促していくために、当ステーションでは、キャリアと心の両面からのカウンセリングを軸に、社会適応支援を含む包括的支援を個別的・継続的に実施しています。内容としては①各人の状態に応じ、適切な支援を適切な時期に行えるように、他の若者支援団体や医療・福祉・教育などの各機関と連携が取れるネットワーク体制の整備、②社会体験活動、職業体験、コミュニケーション能力の向上などの支援プログラムの策定、③保護者に対するサポートなど、若者とその家族の方への総合的な相談や支援を実施して、就労・就学に向けた社会的自立を支援してきました。また今年度からは、「高校中退者等アウトリーチ事業」を新たに受託し、訪問支援事業にも着手しました。



支援してきました。また今年度からは、「高校中退者等アウトリーチ事業」を新たに受託し、訪問支援事業にも着手しました。

この間、当ステーションを利用した何らかの事情や困難を抱えて動き出せないでいる若者は、400名以上に登り、そのうち約140名が就労・職業訓練・進学等、進路決定に至っています。

[これからの展望]

これまでの活動に加え、ニート化を早期予防するために10代の若者への多面的なアプローチを展開していきたいと考えています。

個別相談だけでなく、個人の特性に合わせた学び方の獲得や人と関わる楽しさを体験する場の保障、一つの目標に向かって力を合わせる体験などさまざまな経験を通して自立を促す支援方法を模索して行きたいと思えます。また地域の支援機関とさらに連携を深め、活動の場を広げていきたいと思えます。



ジョブサポート事業部スタッフ



若者支援ジョブスタとくしま

[これまでの実績]

「若者支援ジョブスタとくしま」は、2010年5月21日にヒューマンわーくびあ1階に開設されました。15歳～39歳の就労に悩みを抱える未婚の若者を対象にしています。開所日は週5日(月～金)、1講座2時間で午前と午後の2回の講座が行われています。定員は概ね5名の少人数で行われており、初めての方でも安心して講座に参加できるように工夫されています。参加費は原則無料であり、教材費や材料費が必要な場合のみ負担していただいています。

講座の大きな柱は、就労支援講座、資格準備講座、コミュニケーション講座であり、内容は3カ月毎に見直しを行い、オーダーメイド型の多彩な講座となっています。外部からも講師を迎えて、様々な職種の方に出会い、様々なことを学ぶことができます。ジョブスタの講座は、知識や技能の習得だけでなく、各種体験を通じた就労への気付きや意欲の向上、コミュニケーション能力の向上を目的としています。

講座の使用方法は、利用者の方が、多彩な講座の中から、スタッフとともに必要な講座を選択して参加します。週3日、午前講座として行われている就労体験の講座は、実際に作業することのほかに、朝、決まった時間に通所する、ということで、不規則になりがちな生活リズムを改善する、というねらいがあります。

現在、第3期目が開講中ですが、第1期(5月～8月)、第2期(10月～12月)を通して、延べ860人の利用がありました。行政や他の支援機関などからの紹介も増え、県内の新たな若者支援の場として、周知されつつあることを実感しています。



講座の様子

[これからの展望]

ジョブスタを利用した若者のうち何名かは、就労や進学等の進路決定に結びつきましたが、まだまだ多くの若者が、自分の方向性を模索している段階です。立ち止まっている若者をどう自立へ促していくのか、若者の社会的自立を支援するには何が必要か、ということを常に考え、長期的な視点で、本事業を進めていきたいと考えています。



ジョブサポート事業部スタッフ

賀川豊彦献身100年記念事業徳島プロジェクト



「賀川豊彦献身100年記念プロジェクト」リーフレット

2009年6月13日に設立された賀川豊彦献身100年記念事業徳島プロジェクトは、この間10項の事業を行ってきました。

県民フォーラム、「死線を越えて」1万人上映運動、賀川豊彦に関する評論の公募、賀川豊彦学習講座の開設、ローガン・マヤス師の子孫の招聘の事業は終了し、大学・研究機関との提携も緒に就き、将来的な発展が期待されます。賀川豊彦副読本作成事業も編集委員会の立ち上げがなされました。残された事業としての鳴門市賀川豊彦記念館を支える事業、賀川豊彦社会基金(賀川ファンド)創設は、今後も継続して取り組んでいくことが幹事会で確認されています。「その流域」の復刻については、スポンサーを探すこととしています。

徳島プロジェクトは、2010年7月に総会を開催し解散しましたが、「賀川豊彦関係団体連絡協議会」として、2012年国際協同組合デーと賀川豊彦の再評価に向けた事業を行っていきます。

2010年9月7日に開催した賀川豊彦関係団体連絡協議会(仮称)では、①団体名称②役員体制③今後の主な事業(残課題を含む)について議論をしました。今までの活動の経緯を踏まえ、団体名称は「賀川豊彦関係団体連絡協議会」とし、役員体制は、賀川豊彦献身100年記念事業徳島プロジェクトの幹事が代表幹事として引き継ぐことになりました。

そして、規約等を明確にするために、規約を作成し、他団体に呼びかけることにしました。

なお、残された徳島プロジェクトの実行課題を賀川豊彦関係団体連絡協議会(仮称)が引き継ぐことになりました。



神戸文学館 [2009/2/13撮影]

賀川豊彦献身100年記念韓国フォーラム [2009/10/27]

賀川豊彦の生い立ちとその活動



消費生活共同組合法 施行4周年記念のついでで挨拶する賀川

賀川豊彦は1888年、神戸に生まれましたが、父母が亡くなったため徳島の本家に引き取られ、そこで育ちました。旧制徳島中学卒業後、明治学院、神戸神学校で学びました。1909年から神戸新川で救貧事業を始めました。1914年からアメリカのプリンストン大学で学び、帰国後は三菱・川崎大争議を指導するなど労働運動にも関わりました。神戸消費組合や灘購買組合(コープこうべの前身)の設立、日本農民組合の創立等、その活動は多岐にわたっています。